

特集

支え合う暮らし



「健康で長生きすること」それは誰もが願うこととです。しかし、若いとともに、必ず支えが必要になる時がやって来ます。

「敬老の日」、だから考える

9月21日は敬老の日。高齢者の健康と長寿を祝うとともに若年者が高齢者の福祉に関心を深める機会でもあります。老後は、住み慣れた我が家で暮らし続けたい、と思うのは誰もが望むことです。

内閣府がまとめた平成26年版高齢社会白書によると、「治る見込みがない病気になった場合、どこで最期を迎えたいか」という問いに半数を超える54・6%の方が「自宅」と答えています。

三世帯同居から高齢者のみの世帯へ

かつての日本は、三世帯同居が当たり前でした。しかし、一次産業の衰退、若者の大都市での就職などで世帯構成が大きく変化しています。

7%（高齢者数1万5726人）だったのに対し、平成27年4月には29・0%（高齢者数1万6654人）となり、高齢化はさらに進むことが予想されます（左グラフ参照）。

全国の65歳以上の高齢者のいる世帯の構成をみると、三世帯世帯の割合が、昭和55年では全体の半分を占めていました。ところが、平成25年では夫婦のみの世帯が全体の3割で一番多く、単独世帯と合わせると半数を超え、三世帯同居は2割に満たない状況となっています（平成26年版高齢社会白書より）。

また高齢化率は、全国的に上昇していますが、二本松市も同様に上昇傾向にあります。二本松市の高齢化率をみると、平成18年4月が24・



今回は、市内に住む三世代家族、地域の福祉を支えていく若者、そして行政の役割の3つを通して、支え合うことの大切さを一緒に考えていきます。



東和地域の木幡地区で暮らす三浦さんご一家(左から三浦喜富さん、孫の桜花ちゃん、妻のサキ子さん、父一郎さん、母タミ子さん、娘の理恵さんと夫の将さん)

家族の支えが一番の安心

「モーさん、終わった？」

東和地域で畜産業を営んでいる三浦さん。孫の桜花ちゃんが、牛の世話を終えて家に戻ってきたおじいちゃんに声を掛けます。

「家族がそばにいてくれるだけでありがたい」と話すタミ子さん。三世代家族の三浦さんご家族にお話を伺いました。

家族みんなで支え合う暮らし

7人家族の三浦さんご一家。畜産業を営んでおり、毎日、牛の世話が欠かせません。娘夫婦は共働きで、喜富さんも勤めているので、日中は妻のサキ子さんが、家事全般と牛の世話をします。朝夕の牛の餌やりは、出勤前に娘夫婦も手伝い、家族で牛の世話をしています。

ひいおばあちゃんには

かなわない

桜花ちゃんの子育ては、理恵さんご夫婦にとって初めての経験です。共働きをされている2人にとって家族の支えは欠かせません。

「夜泣きがひどい時、あなたたちは、明日、仕事なんだから寝てなさい」と、タミ子おばあちゃんが桜花をおんぶして寝かせてくれます。



1

ます。桜花もタミ子おばあちゃんに慣れているから安心して泣きやみますよ」と理恵さん。旦那さんと「タミ子おばあちゃんにはかなわないね」と話しているそうです。「一緒に暮らしてみても分かったありがたさはたくさんあります。自分たち夫婦がいることで、助けていることもあると思います。助けてくれることも多い」と改めて実感しています。



2

1、喜富おじいちゃんの仕事の様子を見に来た孫の桜花ちゃん。2、日中の牛の世話は、サキ子さんの仕事です。3、ひ孫が11人のタミ子おばあちゃん。

一緒にいるだけで安心

家族の支え

「こうして家にいられることが一番の幸せだよ」と話してくれたタミ子おばあちゃん。

ひ孫の桜花ちゃんが幼稚園に通うようになったら、バス停まで迎えに行くことを考えているそうです。孫の理恵さんの時もそうしていました。

今は、自分の病院の送り迎えを孫の夫の将さんに助けてもらっています。

「家族が多いとにぎやか過ぎてけんかをすることもあるけれど、お互いに言葉を交わすことが大事だと思うね。近所でも三世代家族の家は少なくなってきたけれど、ひ孫がいるおかげで近所の人も顔を見に来てくれたり、三浦さんは家族が多いからって野菜を持って来てくれたりもする。私は、こうして家族と一緒にいられて本当に幸せだと思っっているよ」とひ孫を抱きながらタミ子さんは話します。



3

福祉を支える若者たち



介護が必要になった時、家族以外の助けが必要になります。
二本松市内にある福島介護福祉専門学校では、福祉の専門家を育てています。
未来の福祉を支える2人の学生を取材しました。

市内の介護施設「羽山荘」での実習の様子

1. 手浴の介助を手伝う菅野君。実習中は緊張の連続です。
2. 夏祭りの練習中、入所者とハイタッチする職員。
3. 何を歌う？笑顔で入所者のおばあちゃんと会話を楽しむ佐藤さん。



interview 地元の福島介護福祉専門学校に通う学生2人に話を聞きました。



福島介護福祉専門学校1年
佐藤理奈さん(上太田)

憧れの介護職員を目指して福祉を学んでいます

中学生の時に、岩代地域福祉センター内にあるデイサービスセンターで職場体験をしました。そこで働く職員がとても明るく、はつらつと楽しく仕事をされているのを見て、お年寄りと接する楽しさや面白さを知り福祉を学んでいます。学校では、先生が介護施設で働いていた時の話を聞いたり、クラスメイトも同世代だけでなく年上の方もいたりするので、学校生活は充実しています。



福島介護福祉専門学校1年
菅野一輝さん(太田)

実習先の職員の皆さんのような介護福祉士になりたい

祖父母と一緒に暮らす菅野さん。いろいろな話が聞けるので、祖父母と会話するのが楽しいといいます。バスで通学していた中学生の時、困っているお年寄りの方に声を掛けたり、掛けられたりすることもあるって、困っているお年寄りを助けたいと思い福祉の道を選びました。実習中の菅野さんは、働いている先輩の話を聞き、真剣にメモを取りながら取り組んでいました。



二本松市地域包括支援センター
佐藤義幸さん

高齢者の自立支援と
介護をサポート

地域包括支援センターは要支援認定を受けた方のケアプラン作成のほか、地域の皆さんが住み慣れた地域でいきいきと生活ができるよう、高齢者やその家族の悩み、地域の課題などについて相談を受けています。専門職員(保健師、主任介護支援専門員、社会福祉士)が一緒になって解決の糸口を探します。相談は訪問のほかに来所や電話でも対応していますので、悩みや課題を一人で抱え込まずに、まずはご相談ください。

介護サービスを利用するには

介護サービスを利用するためには、「介護が必要であることの認定」を受ける必要があります。

①申請する

高齢福祉課、各支所地域振興課市民福祉係などで申請します。

②認定調査・医師の意見書

担当職員が自宅を訪問し、心身の状況などを本人や家族から聞き取ります。また主治医から、心身の状況についての意見書を作成してもらいます。

③審査・認定

調査訪問の結果と主治医の意見書をもとに、審査会で介護の必要性や程度について審査します。

④認定結果の通知

原則、申請から30日以内に認定結果通知と結果が記載された保険証が届きます。

⑤ケアプランの作成

本人、家族の意向をもとに各種サービスを組み合わせたケアプランを作成します。

⑥サービスの利用開始

ケアプランに基づいたサービスを利用できます。利用者の負担は原則としてかかった費用の1割です。

健康上に問題がない状態で日常生活を送れる期間(健康寿命)を少しでも長くすることが、いつまでも住み慣れたところで暮らすための秘訣です。しかし、歳を重ねると、支えを必要とする時が必ずやってきます。
介護は、2、3日で終わるものではありません。休みなく介護は続くものです。地域包括支援センターは、介護支援と高齢者の悩みに関する総合的な相談窓口です。

高齢者を支える行政



1. 高齢者虐待のケース会議。市役所だけでなく、警察・病院・ケアマネージャーなどと連携しながら対応しています。2. 高齢福祉課では、介護認定の申請受付をはじめ、介護サービスの仕組みなどを紹介しています。



タミ子おばあちゃんが「手伝いをすると孫から、ありがとうと言われる。いつもは普通に聞き流してきたけど、感謝の気持ちを言ってもらえるとやっぱりうれしい。」と話していたことを思い出します。65歳以上の高齢者はこれまで、支えられる側とされてきました。今回、取材で伺った三浦さんのご家族のように、逆に家族を支えているおじいちゃん、おばあちゃんもいらっしゃいます。家族が支え合うことこそ、住み慣れた家でずっと暮らしたいという希望を叶える一番大切な支えなのだと改めて感じさせられました。

一方で、ご近所の方や民生児童委員による一人暮らし高齢者の見守りや各地区で開催する敬老会など、地域による支え合いも高齢者の大きな支えのひとつとなっています。

「老(お)いを敬(うやま)う」若い世代と高齢者の世代がお互いに支えたり支えられたりしながら生きること、家族や地域そして行政がお互いに支えあうことの大切さを、今こそ見詰め直す時なのではないでしょうか。